

【質問】高齢者の薬物動態は？

【回答】

健康な非高齢男性(65歳未満)6例及び65歳以上の高齢者9例にイミダフェナシン0.1mgを空腹時に単回経口投与した時、高齢者ではCmaxが非高齢男性に比べて1.2倍高かったが、AUC_{0→∞}は、ほぼ同様でした。

投与日	Tmax (hr)	Cmax (pg/mL)	AUC _{0→12} (pg・h/mL)	T _{1/2} (hr)
高齢者	1.0 [1.0-2.0]	445±136	2,140±480	3.1±0.4

平均値 ± 標準偏差 Tmaxのみ中央値 [最小値-最大値]

投与日	Tmax (hr)	Cmax (pg/mL)	AUC _{0→12} (pg・h/mL)	T _{1/2} (hr)
非高齢者	1.5 [1.0-2.0]	382±106	2,010±1,050	2.6±0.7

平均値 ± 標準偏差 Tmaxのみ中央値 [最小値-最大値]

添付文書の記載は、以下の通りです。

【用法・用量】

通常、成人にはイミダフェナシンとして1回0.1mgを1日2回、朝食後及び夕食後に経口投与する。効果不十分な場合は、イミダフェナシンとして1回0.2mg、1日0.4mgまで増量できる。

【使用上の注意】 - 抜粋 -

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので慎重に投与すること。

出典：添付文書、インタビューフォーム